

# 鉄斎の旅 —足跡、天下に遍し—

平成30年4月1日[日]—6月17日[日]

前期：4月1日[日]—5月6日[日] 後期：5月12日[土]—6月17日[日]

10時～16時30分（入館は16時まで） 月曜日休館 但し4月30日は開館、翌日休館



38 三老登嶽図



12 日本絵図

近代文人画の巨匠・富岡鉄斎（1836～1924）は、生涯をかけて「万卷の書を読み、万里の路を行く」という文人の理想を實踐した。若い頃より旅を好み、北海道から九州、琉球の島々までを描いた《日本絵図》（No. 12）の賛には「南は鬼界島から北は北海道まで、一剣を帯びて海山のすぐれた景色を探し、（中略）常に奔走して険阻なところと平坦なところを経験し尽くした」と、数え41歳にして全国を隈なく巡歴したことを語っている。それは単なる物見遊山ではなく、湧きあがる知識欲と実証の精神が若き鉄斎を旅へと駆り立てていた。そして、訪れた地から主題を得て描いた作品の中に、旅の経験と知識を発露していった。

少壮期の鉄斎が没頭した歴史研究のひとつに、南朝史跡を巡った各地への旅がある。尊皇思想のもと、幕末から全国で南朝忠臣たちの顕彰活動が盛んになり、史跡整備などが進められた。鉄斎も顕彰に取り組み、《楠公忠戦図》（No. 33）、《楠妣庵図》（No. 28）など、楠木正成をはじめ忠臣たちを数多く描いたことは、「鉄斎一人物画の魅力―」展（2017年）で紹介したとおりである。実地調査を重要視した鉄斎は、大阪・金剛山を中心に南河内に点在するゆかりの地を訪れ調査を重ねた。《楠公千早赤坂古城図》（No. 13）は上赤坂城、下赤坂城、千早城とその周辺集落を写したもので、無数の書入れから独自に取り組んだ実地検分の跡を見ることができ、この絵図を元に明治16年（1883）、楠木正成を祀る神戸・湊川神社へ《河内千破城図》（湊川神社蔵）を奉納している。

山陰方面にも二度にわたり南朝史跡を訪ねた。明治5年の旅では、岡山藩士・野呂直貞の案内で岡山・院庄の後醍醐天皇行宮跡を見学し、作楽神社を参拝したことは筆録「心おほへ」、「巡土雑話」（No. 64）などに詳しい。二度目の旅は、堺・大鳥神社大宮司（明治9～14年在任）を務める傍ら、岡山の作楽神社、鳥取の名和神社、鳥根の杵築神社（出雲大社）などを巡遊している。この旅行は、これまで詳細不明とされてきたが、鉄斎が画家・中島華風に贈った「消夏餘記」（No. 68）に当時の記録が遺されていた。元弘の乱の合戦地である船上山への登山も試みたが、連日の大雨により断念せざるを得なかった。

そして南朝の足跡を訪ねる旅は、東日本にも及ぶ。「信濃浪合及登嶽記」（No. 67）によると、明治8年、念願の富士登山を決行する前に、南信州の浪合村（現長野県下伊那郡阿智村）を訪れた鉄斎は、浪合神社を参拝し尹良親王（後醍醐天皇の皇孫）の墓を弔った。滞在中、書画の揮毫に応じながら、地元が進める尹良親王の顕彰活動に助力することとなる。胸中に刻んだ風景を選定した《扶桑勝区帖》（No. 14）には、全国の名所旧跡と共に浪合神社を描いていることから、浪合村への思い入れの深さが感じられる。明治36年、完成した尹良親王墓石碑の除幕式で副祭主を務めることになった鉄斎は、68歳にして再び浪合と飯田へ足を運んだ（No. 69）。二度の訪問を通して深まった縁によって、南信州には鉄斎の揮毫による石碑、扁額が各地に遺されていて、旅の足跡を今でも辿ることができる。

鉄斎の関心は、先哲の遺像、墳墓を調査することに留まらず、土地に残る習俗にも向けられ、愛媛・三津浜の魚市に取材した《三津浜漁市図》（No. 10）や、やすらい祭、鍋冠祭、祇園祭、牛祭の当時のようすを伝える《四祭図》（No. 45）なども描いている。また、予てより交友があった「北海道の名付け親」として知られる松浦武四郎から蝦夷地の実情について学んだ鉄斎は、北海道旅行を計画し、明治7年6月に京都を出発した。旅行記「北遊日記第一」（No. 65）によると、東京に滞在後、函館、室蘭、札幌、小樽、積丹を中心に道南を巡り、帰路には中尊寺、日光東照宮などを巡歴し、東京へ立ち寄った約110日間に及ぶ大旅行であった。旅から戻った鉄斎は、《蝦夷人鶴舞図》（No. 21）や、自作の詩を添えた《捕熊図・同詩書》（No. 24）、イオマンテの儀式を描いた《蝦夷人熊祭図》（No. 48）など、生き生きとしたアイヌの生活を作品に表現している。旅中、アイヌの人々や祭礼に直接触れる機会には恵まれなかったようだが、自身の実体験と諸書から得た知識が画囊に蓄えられ、より人間味に溢れる作品へと成熟していったのではないだろうか。

健脚を誇った鉄斎も、明治39年71歳の和歌山旅行を最後に歴遊の旅を終えるが、老境に至っても日本の景を描き続けた。かつて仰ぎ見た姿を追憶し、89歳で描いた《富士山図》（No. 63）の賛には、「此れは是れ、神州第一の山」と書し、最晩年になっても変わらず富士山を敬う心を持ち続けていた。（細里わか奈）



63 富士山図

#### [参考文献]

小高根太郎『富岡鉄斎の研究』（芸文書院、1944）、佐々木利和「東京国立博物館保管 富岡鉄斎筆「旧蝦夷風俗図屏風」について―アイヌ民俗誌の資料としての検討―」（『Museum』329、東京国立博物館、1978）、村沢武夫『鉄斎と飯田』（日刊信州内報社、1980）、富岡鉄斎著、鶴田武良編『鉄斎筆録集成 第1巻』（便利堂、1991）、村越英明「『万里の路を行く』ということ」（『秋季特別展 鉄斎 万里の路を行く』鉄斎美術館、2001）、奥田素子「鉄斎―万里の路を行く―」（『鉄斎美術館開館40周年記念 鉄斎―万卷の書を読み、万里の路を行く―』鉄斎美術館、2015）、細里わか奈「鉄斎一人物画の魅力―」目録（鉄斎美術館、2017）

# 《出品目録》

[書画]

番号	名 称	制作年		年 齡	寸 法	材質・技法	員 数
1	花瓶図 大田垣蓮月歌賛	明治2	1869	34	135.5×30.6	紙本墨画	1幅
2	越溪観楓図	明治2	1869	34	136.7×48.2	紙本着色	1幅
3	宗廟之詩書	明治2	1869	34	133.9×29.6	紙本墨書	1幅
4	済勝余興図 漫遊所見図	明治4	1871	36	11.4×212.8 11.4×190.4	紙本着色	2帖
5	高千穂峰図	明治5	1872	37	134.0×30.6	紙本淡彩	1幅
6	寒江万里図	明治6	1873	38	122.5×171.0	紙本金地墨画	1面
7	富士画 東久世通禧歌賛			30代	30.4×70.6	絹本墨画	1面
8	西遊旧詩書			30代	120.0×28.0	紙本墨書	1幅
9	護王和氣清麻呂公影	明治8	1875	40	119.0×49.0	紙本淡彩	1幅
10	三津浜漁市図	明治8	1875	40	180.2×81.9	紙本淡彩	1幅
11	大台原絵図	明治8	1875	40	151.5×73.6	紙本淡彩	1幅
12	日本絵図	明治9	1876	41	179.3×96.2	紙本淡彩	1幅
13	楠公千早赤坂古城図	明治10	1877	42	65.0×94.6	紙本着色	1幅
14	扶桑勝区帖	明治11	1878	43	各 23.0×28.0	紙本着色	1帖
15	妹勢山真景図	明治12	1879	44	122.3×33.2	紙本淡彩	1幅
16	通天紅葉図	明治15	1882	47	138.4×55.0	絹本着色	1幅
17	池大雅高芙蓉韓大年遊岳図	明治17	1884	49	132.2×42.2	絹本淡彩	1幅
18	畝傍山御陵之図			40代	113.0×52.0	紙本淡彩	1幅
19	峨山春暁図			40代	144.6×57.1	絹本着色	1幅
20	筑波山真景図			40代	136.3×52.2	紙本着色	1幅
21	蝦夷人鶴舞図			40代	118.7×45.8	紙本淡彩	1幅
22	耶馬溪図巻			40代	19.0×336.0	絹本着色	1巻
23	蝦夷人操舟図			40代	18.6×28.5	紙本淡彩	1幅
24	捕熊図・同詩書			40代	各133.0×82.0	紙本淡彩・墨書	対幅
25	嵐山秋楓図	明治19	1886	51	161.8×57.0	絹本着色	1幅
26	土佐古府蹟之図	明治22	1889	54	56.8×89.8	紙本淡彩	1幅
27	古うつゝの薦の細道図	明治23	1890	55	31.0×324.4	紙本淡彩	1巻
28	楠妣庵図	明治27	1894	59	140.4×49.6	絹本着色	1幅
29	平城宮趾之図			50代	134.0×85.0	紙本着色	1幅
30	伊予温泉行幸図			50代	31.0×92.4	紙本淡彩	1面
31	安宅関図 幸野椽嶺歌賛			50代	135.9×61.7	紙本着色	1幅
32	神武天皇像			50代	129.7×42.3	紙本着色	1幅
33	楠公忠戦図			50代	144.2×49.5	絹本着色	1幅
34	鳩峰・五瀬・春日三景図			50代	各127.2×50.3	絹本着色	3幅対
35	太秦牛祭図	明治30	1897	62	149.0×53.0	紙本着色	1幅
36	一咲戯筆帖	明治33	1900	65	各 14.4×24.3	紙本淡彩・墨書	1帖
37	天逆鉦図巻	明治33	1900	65	27.0×498.0	紙本着色	1巻
38	三老登嶽図	明治34	1901	66	129.6×50.3	絹本着色	1幅
39	名所十二景図	明治37	1904	69	各138.0×51.9	紙本着色	6曲1双
40	落車図	明治37	1904	69	33.5×48.3	紙本墨画	1幅
41	熊野勝跡図			60代	27.4×305.7	紙本淡彩	1巻
42	蝦夷遊歴図			60代	117.4×30.2	紙本淡彩	1幅
43	錦帯橋図			60代	22.8×52.5	紙本淡彩	1幅
44	晃山勝区図			60代	各 17.6×23.4	紙本淡彩	1帖

番号	名 称	制作年		年 齢	寸 法	材質・技法	員 数
45	四祭図			60代	各168.4×85.0	紙本着色	2曲1双
46	隠士牡丹花肖柏像	明治38	1905	70	127.6×49.8	絹本着色	1幅
47	華之世界図	大正3	1914	79	140.1×41.6	絹本着色	1幅
48	蝦夷人熊祭図			70代	135.5×41.7	紙本着色	1幅
49	長福寺略図			70代	25.7×74.0	紙本墨画	1巻
50	耶馬溪図			70代	71.3×94.5	紙本淡彩	1幅
51	梅山幽趣図	大正4	1915	80	130.0×42.0	絹本着色	1幅
52	万世不易平安城図	大正4	1915	80	54.6×67.8	紙本墨画	1幅
53	休師訪ノ貫図	大正4	1915	80	129.4×64.3	紙本墨画	1幅
54	文字市若布刈神事図	大正5	1916	81	100.0×45.1	紙本淡彩	1幅
55	大原邨婦図	大正7	1918	83	141.8×52.1	絹本着色	1幅
56	朝晴雪図	大正8	1919	84	38.9×52.3	紙本淡彩	1幅
57	洛西太秦薬師瑠璃光如来画像	大正9	1920	85	135.7×38.0	紙本着色	1幅
58	社頭曉景図	大正10	1921	86	40.5×66.0	絹本着色	1面
59	和気清麻呂公旧蹟図	大正10	1921	86	50.6×84.0	紙本墨画	1幅
60	富士山図	大正13	1924	89	34.8×126.5	紙本墨画	1面
61	能因法師図	大正13	1924	89	128.8×38.2	紙本淡彩	1幅
62	山紫水明処図	大正13	1924	89	32.5×133.8	紙本墨画	1面
63	富士山図	大正13	1924	89	45.0×61.0	紙本木炭	1面

[筆録・所用印]

番号	名 称	制作者	制作年	寸 法	材質・技法	員 数
64	巡土雑話	富岡鉄斎筆	明治5 (1872)	24.5×16.6	紙本墨書・墨画	1冊
65	北遊日記第一	富岡鉄斎筆	明治7 (1874)	21.9×13.6	紙本墨書・墨画	1冊
66	吉野山花見	富岡鉄斎筆	明治8 (1875)	16.6×10.0	紙本墨書・墨画	1冊
67	信濃浪合及登嶽記	富岡鉄斎筆	明治8 (1875)	19.0×14.0	紙本墨書・墨画	1冊
68	消夏餘記	富岡鉄斎筆	明治9～14 (1876～81) 頃	11.8×527.0	紙本墨書・墨画	1巻
69	再信記事	富岡鉄斎筆	明治36 (1903)	20.2×14.0	紙本墨書・墨画	1冊
70	「足蹟遍天下」印	江馬天江刻	明治7 (1874)	2.3×2.4×3.3	扶桑木	1顆

・出品作品は期間中、下記の通り2回にかけて展示します。但し一部作品は重複することがあります。

前期：4月1日(日)～5月6日(日) 後期：5月12日(土)～6月17日(日)

・下記の日程で学芸員による展示説明会を行います。

4月7日・21日、5月26日、6月9日 各土曜日の午後1時30分より

・本展覧会にあたり、格別のご協力を賜りました皆様に深く感謝の意を表します。(敬称略)

和中歌子

鉄斎美術館寄託品 (No.27、70)

・次回展覧会 「鉄斎-文人多癖-」

2018年9月11日(火)～11月25日(日)

清荒神清澄寺 鉄斎美術館

〒665-0837 兵庫県東塚市米谷字清シー番地 Tel.0797-84-9600 Fax.0797-84-6699 <http://www.kiyoshikojin.or.jp>

平成30年3月16日 印施